

モニタリングチェックシート（平成28年度）

< 評価 >

優：特記すべき実績・成果が認められるもの

良：管理運営が良好と認められるもの

要改善：一部において改善を要する点が見受けられるもの

施設名	大泉町福祉園
指定管理者名	社会福祉法人 武蔵野会
評価者	障害者施策推進課長

評価項目および評価の視点	評価	評価理由・改善すべき点等
1 効率的運営・効率化への取り組み <ul style="list-style-type: none"> 事業計画書で提案されたとおり事業が実施されているか 計画的な予算執行であるか 管理業務費の経理、収納した金銭の取扱いおよび実費負担金等については、適正な処理および管理を行っているか 利用者の利用状況は安定しているか 	良	<ul style="list-style-type: none"> 基本協定や事業計画書に基づく事業運営がなされている。 計画的な予算執行、会計処理の帳簿整理などが行われている。 利用者の利用率は高く安定している。
2 施設管理運営体制 <ul style="list-style-type: none"> 業務の再委託における範囲は適正か 物品購入および再委託の際に、区内業者の活用に努めているか 職員配置は協定を遵守しているか 職員について区内雇用の促進を図っているか 設備の保守点検、備品の管理は適切に行われているか 緊急時のマニュアルを区と協議して整備し、緊急時には適切な措置を講じているか 練馬区環境マネジメントシステムの趣旨を踏まえた業務を行っているか 	良	<ul style="list-style-type: none"> 業務の再委託における範囲は適正である。 物品購入などにおける区内業者の活用に努めている。 職員配置は協定を遵守し、適正な運営体制を整えている。 設備の保守点検、備品の管理は適切に行われている。 緊急時のマニュアルを整備し、必要な訓練などを実施している。 用紙使用量の削減に努めるなど、環境マネジメントシステムの趣旨を踏まえた業務を行っている。
3 サービスの維持・向上に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> 利用者本位で質の高い介護サービスや生活指導または作業指導等の提供を行っているか 苦情処理の規定と体制を整備し、苦情があった際に適切かつ迅速に対応しているか 地域との連携を図って事業を実施しているか 計画的に職員研修を行うなど、職員の育成につとめているか 	優	<ul style="list-style-type: none"> 強度行動障害支援の研修や実践の積み重ねにより、利用者が安定して過ごせるなどの効果がみられている。 障害の多様化や重度化に対応するため、個々の利用者のコミュニケーション・食事・外出などの支援方法についてまとめた「介助の手引き」を作成している。 介護体験教室を実施し近隣住民に介護技術を伝えるとともに、障害のある方への理解や啓発に役立っている。 町会や近隣施設と防災訓練を実施するなど、地域との連携を図っている。 職員自らの計画に基づいた研修により、自己啓発や自己覚知が進み、職員の育成・定着に繋がっている。
4 法令遵守等 <ul style="list-style-type: none"> 労働基準法、労働安全衛生法、育児・介護休業法、労働環境に関する法令等を遵守しているか 練馬区情報セキュリティおよび個人情報保護条例に準拠した規程を設け、必要な措置を講じているか 情報公開条例等に準拠した規程を設け、必要な措置を講じているか 	良	<ul style="list-style-type: none"> 雇用に関する関係法令などの遵守について、適切に対応している。 練馬区情報セキュリティポリシーおよび個人情報保護条例に準拠した規程を整備し、研修や職員会議を通じて周知徹底に努めている。 情報公開条例に準拠した規程を整備し、必要な措置を講じている。
5 利用者評価等 <ul style="list-style-type: none"> 利用者アンケートや第三者評価の結果は良好か 運営協議会からの評価は良好か 	良	<ul style="list-style-type: none"> 利用者アンケートの結果は良好である（90%が満足）。運営協議会からの評価も良好である。
総合評価	良	<ul style="list-style-type: none"> 項目全般について、区が求める水準を満たしている。 障害の多様化や重度化に対応するため、個々の利用者の支援方法についてまとめた「介助の手引き」を常に更新し、新たなサービスを利用する際にも役立っている。また、家族のニーズにも丁寧に応え信頼関係を築いている。 今年度から新たに地域住民や大学生向けに介護体験教室を開催し、介護技術を伝えるとともに、生活介護施設の紹介の場として、障害のある方に対する理解や福祉人材の確保に努めている。 「学ぶ集団」として職員研修を強化し、支援向上や自己覚知など自分に向き合う研修を継続的に実施することにより、職員の意欲の向上や職場定着に繋がっている。